

出席者：坂田貞二、臼田雅之、水野善文

I. Pollock 編著の書評につき

- ・原稿提出状況を確認
- ・確約をいただいていたが未提出のかた (Tamil, Pali, Tibet, Urdu pt.1, Hindi pt.2) には水野から督促する。
- ・辞退を表明された部分 (Gujarati, Sinhari) の対応 → どうしても落とさたくない。
Gujarati については：井坂さんのお弟子さん筋に review ではなく brief survey の形で 300 語ほどの執筆を依頼する。
Sinhala については：鈴木正崇先生に適任者がいないか坂田先生から伺う。
- ・全体を総括する部分の論考執筆について
坂田、臼田、水野が Pollock の序論および提出された各人の review を吟味して、問題点を洗い出し、それぞれ骨格を考える。その際、同じ関心から最近出版された Han Harder 編著の論集も参照する。
→ 次回の運営委員会（10月21日〈金〉14:30～17:00）にて持ち寄り調整する。（それを次の研究会（11/5）に諮る）

II. 究極目標の『南アジア（インド）文学史』の具体的な執筆方針の構築へ

世界の学界は一刻も歩を緩めることなく進んでいるので、独自性を如何に出すか、が肝要。

- ・言語横断的な横の連関を具体的に示す。（例：ラーマ物語の1シーン。）
- ・Folklore を注視＜沙門文学、ジャイナ（行商）、ロマ：移動（空間・時間）と語り：パーラーマーサーもつながる＞＜現代のダリトにつながるか＞＜日本のダリト：中上健次＞
- ・とはいえ、全ての言語の文学に同じトーンで執筆するのは至難の技。トーンの違いは出ても仕方がない。
- ・文学の歴史立体地図・年表＜GIS＞
＜これまで研究会で議論したことを踏まえつつ＞
次回の運営委員会（10/21）でこの点も具体案を策定するところまで持って行く。

III. 次回研究会（11月5日（土）本郷サテライト）のプログラム案

1) Pollock 編著書評の総まとめ

2) 『文学史』（商業出版）の執筆について提案

- ・坂田貞二：言語横断的トピックにつき
- ・臼田雅之：倒叙体の可能性
- ・水野善文：「語り部」という視点から

（ケリンダー・ヴァンのシュリーヴァツァ氏来日日程によってはブリーフスピーチも）

IV. シンポジウム＜現代インドと共催＞（11月6日（日）府中キャンパス）のプログラム案

テーマ：南アジア諸言語による現代文学・最新事情（どんな文学が読まれているか）

報告候補者：ヒンディー・マラーティー：石田英明（水野より依頼済み）

ベンガリー	：丹羽京子	（水野より依頼）
ウルドゥー	：萩田 博	（水野より依頼）
タミル	：山下博司	（水野より依頼）
英語	：関口真理	（坂田より依頼）

以上